

モニタリング結果報告書 (令和元年度)

1. 施設概要

施設名	津久井やまゆり園		
所在地	横浜市港南区芹が谷2-1-1		
サイトURL	https://www.kyoudoukai.jp/		
根拠条例	神奈川県立の障害者支援施設に関する条例		
設置目的(設置時期)	障害者総合支援法第5条第11項に規定する障害者支援施設		
指定管理者名	社会福祉法人かながわ共同会		
指定期間	H27.4.1 ~ R7.3.31 (2015年) (2025年)	施設所管課	障害サービス課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応	
<p>利用状況はB評価、利用者満足度はS評価、収支状況はS評価となったことから、3項目評価はA評価とした。</p> <p>ただし、昨年度、指定管理者である法人の元理事の逮捕事案をきっかけに同園の利用者支援を厳しく指摘する声が県に寄せられ、県は、随時モニタリングを実施し、利用者の支援の状況等の確認を行った。また、令和2年1月には津久井やまゆり園利用者支援検証委員会が設置され、指定管理者が作成した記録をもとに、利用者支援の検証が行われた。同委員会では、同園において不適切な身体拘束が行われていたことが指摘された。</p> <p>今後、県は、随時モニタリング等を通じて、利用者支援の内容を確認するとともに、必要な改善指導を行っていく。</p>	
<p><各項目の詳細説明></p> <p>◆管理運営等の状況 平成28年度に発生した事件の影響で仮移転中ではあるものの、身体拘束ゼロを目指し、意思決定支援の充実に引き続き力を注ぐとともに、第三者委員やオンブズマンに積極的に来園いただき、外部の目も入れて利用者本位のより質の高い支援の提供に努めた。</p> <p>利用者支援のあり方に疑義が生じているとの声があり、県としても随時モニタリングによる調査に入っている。(現在も調査継続中)</p> <p>◆利用状況 意思決定支援の充実により、県の障がい福祉施策でもある入所施設からの地域移行がますます進んだ。仮園舎での生活であることから新規入所者は元津久井やまゆり園利用者のみとしているため、地域移行を進めれば進めるほど利用状況は下がってしまう。その結果、対前年度比96.7%となり、B評価となった。</p> <p>◆利用者の満足度 利用者の満足度調査において、上位2項目(満足、どちらかといえば満足)の回答が95.4%のため、S評価となった。重度知的障がい者を対象とした施設のため、利用者家族を対象に満足度調査を実施。回収率は67%(白紙2件を含む)であった。</p> <p>◆収支状況 その他収入においてまとまった寄付金が入ったため、その他収入が当初予算よりも大きく増額となっている。今年度もマイナスではあるものの、昨年度比では大きく改善されている。</p> <p>◆苦情・要望等 帰宅協力サービスとして実施している園独自の送迎事業について、ニーズに応じた対応を要望するものと、報道対応に係る苦情が挙げられており、前者については、ニーズに応じた対応ができるよう体制整備をするとともに、後者については、報道に対し不安を与えないよう理解を求めた。</p> <p>◆事故・不祥事等 食事介助中の事故や現認できなかった足指の骨折事例が挙げられている。事故報告については、電話での第一報を速やかに県に報告している。</p> <p>◆労働環境の確保に係る取組状況 特になし</p>	
3項目評価	S:極めて良好 A:良好 B:一部改善が必要 C:抜本的な改善が必要 ※3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう
A	

3. 月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	無	
現場確認	実施日	特記すべき事項があった場合はその内容
	11月～3月までの間 不定期に11回実施	法人の元理事の逮捕や利用者支援にかかる外部からのご意見等があったため随時モニタリングを実施。モニタリングの内容は、書類確認やヒアリングを実施。 1回あたり、1～6時間程度滞在。
随時モニタリングにおける指導・改善勧告等の有無	有・無	指導・改善勧告等の内容
		調査継続中

4. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
利用者本位の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者本位のより質の高い支援と身体拘束ゼロを目指し身体拘束の状況を時系列に把握するシステムを検討した。 ・随時モニタリング、支援検証委員会から指摘を受けた内容の検証を進める中で、外部講師を招いての研修を2回開催した。 ・法人の取組として「法人内内部監査」の仕組みを作り、各園・事業所の支援場面を視察する取組を始めた。 ・約半数の方の今後の住まいの場の設定に係る意思決定支援の方向性を検討する意思決定支援検討会議を開催した。 ・第三者委員、オンブズマンによる居住の場の視察を定期的に取り入れ、外部の目を取り入れるとともに、意見を反映できるよう取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者の不適切な支援を防止するための、高い専門性と、根拠に基づいた実践支援の重要性、組織としての対応の重要性を確認した。行動制限廃止のための実践について検証を進める中で、次年度につなげる課題を確認する。 ・身体拘束の事案だけでなく、利用者本位の支援を目指す。 ・本人の望む生活の実現に向けた利用者それぞれの意思決定支援を継続して実施していく。
地域貢献と「ともに生きる社会」の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の清掃活動や地元自治会行事への出店、夏休み子ども向け福祉体験講座等を開催した。 ・障害者支援施設、障害者施設団体からの依頼による研修等で意思決定支援の取組を積極的に紹介した。 ・応急手当普及員による一時救命講習を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組を通じて地域との交流を推進した。 ・園内外で意思決定支援の取組について普及啓発活動に努めた。
人材の育成・確保と職員の処遇改善	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校との清掃活動や地元自治会活動に参加。また小中学生との交流を図る場として、地元社協と共催でボランティア講座を開催した。 ・福祉・介護職員処遇改善加算の算定による賃金改善を継続した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障がい者や園に対する理解を深めてもらい、次世代を担う人材育成に積極的に取り組んだ。
園の安定的運営	<ul style="list-style-type: none"> ・重度障害者支援加算取得のため、職員に「強度行動障害支援者養成研修」を精力的に受講させた。 ・リスクマネジメント委員会等の体制のもと、ひやりはっと報告を集計、分析した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本加算による収入の確保に努めた。 ・リスクの回避または低減を図るリスクマネジメントの取組を強化した。

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等

5. 利用状況

評価	<<評価の目安>> 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 目標値を設定していない場合は対前年度比。 社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）があれば記載してください。
B	

	前々年度	前年度	令和元年度
利用者数※	38,751	38,734	37,446
対前年度比		100.0%	96.7%
目標値	41,610	41,610	41,724
目標達成率	93.1%	93.1%	89.7%

目標値の設定根拠： 社会福祉入所施設であり目標値の設定が困難であるため
入所定員×365日で設定（元年度は366日）

利用者数の算出方法（対象）： 施設入所者の延べ人数（定員114名）

※ 原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由 _____

6. 利用者の満足度

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
	簡易調査、定期調査	前年度とほぼ同様の結果となり、満足されているという方が大半を占めた。

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 現在、津久井やまゆり園の運営体制・支援体制に満足していますか

実施した調査の配布方法 手渡し・郵送 回収数／配布数 68 / 101 = 67.3%

配布(サンプル)対象 施設利用者の家族・後見人

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
サービス内容の総合的評価の回答数	42	21	1	2	66	※2名無記入
回答率	63.6%	31.8%	1.5%	3.0%		
前年度の回答数	42	20	4	0	66	
前年度回答率	63.6%	30.3%	6.1%			
回答率の対前年度比	100.0%	105.0%	25.0%			

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

7. 収支状況

評価	《評価の目安》 収支差額の当初予算額：マイナスの施設が該当 (収支差額の当初予算額－収支差額の決算額)／収支差額の当初予算額の比率（マイナス収支の縮減率）が S(優良)：5%以上 A(良好)：0%～5%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：-15%～0%未満 C(収支差額の決算額の削減額が当初予算の85%未満)：-15%未満
S	

[指定管理業務]

(単位:千円)

		収入の状況				支出の状況	収支の状況		
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	マイナス収支の縮減率 ※
前々年度	当初予算	261,057	632,472	18,025	備考欄参照	911,554	908,978	2,576	
	決算	261,057	623,840	18,536	備考欄参照	903,433	951,805	-48,372	1977.80%
前年度	当初予算	251,778	660,149	9,211	備考欄参照	921,138	939,456	-18,318	
	決算	251,745	659,125	22,504	備考欄参照	933,374	956,544	-23,170	-26.49%
令和元年度	当初予算	274,613	627,211	13,028	備考欄参照	914,852	970,564	-55,712	
	決算	274,613	625,575	39,390	備考欄参照	939,578	943,158	-3,580	93.57%

※収支差額の当初予算額－収支差額の決算額/収支差額の当初予算額

<備考>			
○平成29年度			
当初予算		決算	
・経常経費寄付金収入	850	・経常経費寄付金収入	1,612
・修繕積立資産取崩収入	2,000	・備品等購入積立資産取崩収入	9,933
・備品等購入積立資産取崩収入	7,300	・その他の収入	6,991
・その他の収入	7,875		
○平成30年度			
当初予算		決算	
・経常経費寄付金収入	850	・経常経費寄付金収入	6,707
・拠点区分繰入金収入	1,205	・積立資産取崩収入	4,025
・その他の収入	7,156	・拠点区分繰入金収入	1,204
		・その他の収入	10,568
○令和元年度			
当初予算		決算	
・経常経費寄付金収入	545	・経常経費寄付金収入	13,349
・拠点区分繰入金収入	3,400	・積立資産取崩収入	8,634
・その他の収入	9,083	・拠点区分繰入金収入	3,400
		・その他の収入	14,007

8. 苦情・要望等 該当なし

分野	報告件数	概要	対応状況
施設・設備	件 件		
職員対応	1 件 件	帰宅協力サービスの回数が昨年度より減ったことに対し、前年度と同数の保障をお願いしたい。	ご家族の要望に沿う形で、調整を図り、サービスの継続を維持できるように対応する。
事業内容	件 件		
その他	1 件 件	新聞記者（報道）が自宅へ来て取材された。なぜ自宅が分かったのか不安。	園より個人情報伝えることはなく、報道機関から同時期に同じようなアンケートや電話があった。ご家族の報告も受けていることを伝える。報道へ家族が不安になっている旨を伝え対応を検討してもらう。

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9. 事故・不祥事等 該当なし

発生日	<ul style="list-style-type: none"> ①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
4月15日	<ul style="list-style-type: none"> ①立ち上がりの際に表情が悪く、全身に熱感があるため、外部通院をする。レントゲン検査の結果、左足大腿骨頸部骨折との診断。 ②4月15日、外部受診のレントゲン検査結果にて確認。 ③加齢とともに機能低下がみられていることを踏まえ、移乗支援やトイレ介助について、支援方法を確認するとともに、PTへの相談調整を図る。 ④無 ⑤無 ⑥無
11月4日	<ul style="list-style-type: none"> ①10月下旬園内受診にて蜂窩織炎と診断されたが、症状がよくなり、11月2日発熱及びSP02の数値が上がらないため、病院へ救急搬送。肺炎球菌との診断。11月4日入院中であった病院にて容態が急変しご逝去。 ②ご家族からの連絡をうけ、ご逝去を知る。 ③関係期間にご逝去の連絡を入れる。 ④無 ⑤無 ⑥無
12月24日	<ul style="list-style-type: none"> ①夕食後の口腔ケア途中からチアノーゼを確認。直ちに背部叩打法を実施。少量の嘔吐物を確認。サチレーション計測不能のため救急搬送の後、死亡確認。 ②電話による速報後、事故報告書により、内容を確認する。 ③救急搬送後、死亡確認。食物の気道閉塞による窒息死。 ④無 ⑤高齢で以前より脳梗塞を患っており、麻痺の影響で食事をうまく呑み込めないことが多くあり、詰まってしまうリスクもあった。安全確保を最優先に考え、あわせて安心して食事がとれるよう環境整備を行っていく。 ⑥無
12月26日	<ul style="list-style-type: none"> ①ご本人より足をぶつけ痛みがあるとの報告あり、右足第3指に痣を確認。腫れや熱感はなく触れても痛がらない様子で、歩行の様子も変わりはない。12月26日、右足第4指痣と足全体に熱感、内出血と腫れが見られ通院し、右足第4指亀裂骨折。 ②電話による速報後、事故報告書により、内容を確認する。 ③医療機関へ受診。固定は行わず湿布対応。後日、通院し経過を観察、完治。 ④無 ⑤環境整備の早急な対応と複数で見守れる体制がとれるよう応援依頼を早めに行っていく。 ⑥無

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

10. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。